

大府市議会

議長 早川 高光 様

大府市議会建設産業委員会

委員長 木下 久子

報告書

～交通分野からのまちづくりについて～

令和5年3月

大府市議会 建設産業委員会

1 はじめに

当委員会は、令和4年6月14日、本市における「人の移動」について、現状及び課題を把握し、今後の市政運営に生かすため、所管事務調査として「交通分野からのまちづくりについて」の調査を行うことに決定し、以降、閉会中を中心に調査を行ってきた。

テーマ選定に当たっての議論の中で、当委員会の所管事項のうち、特に、まちの血管とも言える道路や公共交通路線については、意見や課題が多く挙げられた。そこで、本市の道路、公共交通路線は、本当に市民にとって使いやすいものになっているのかという視点で調査研究を行うこととし、さらに、人の移動のみならず、人の居場所をつくることについても触れることとした。

このたび、調査研究の成果を取りまとめたので、その内容を以下のとおり報告する。

2 調査研究の概要

(1) 建設産業委員間での勉強会

① テーマ活動の振り返り

調査研究を行うに当たり、まず、平成25年度から始まったテーマ活動の報告内容について振り返るための勉強会を実施した。課題、感想、気になったこと、執行部に確認したいこと、報告書の内容が市の施策に反映・考慮されているか等を共有し、執行部に対して現状等の聞き取りを行い、委員意見交換会を行った。

年度	報告書・政策提言書	結果・課題等
H25	地域産業の活性化について	「大府市中小企業の振興でまちを元気にする条例」(平成27年) 「大府市中小企業振興アクションプラン」(平成28年度)
H26	地域農業の活性化について	農業従事者の高齢化、後継者不足、販路拡大等
H27	消防団について	継続した団員の確保、認知度の向上
H28	空き地・空き家・空き店舗の対策について	「大府市空家等対策の推進に関する条例」(令和2年) 「大府市空家等対策計画」(平成29年度)
H29	大府市中小企業振興アクションプランの進捗状況について	中小企業振興アクションプランを包含した「大府市産業振興基本計画」(令和2年度)
H30	大府市の道路行政について	都市計画道路の進捗状況と今後の動向 無電柱化の現状と動向 狭あい道路解消の取組
R 1	空き家対策等によるまちづくりの推進について	空き家の有効利用の進捗 住民主体のまちづくり

年度	報告書・政策提言書	結果・課題等
R 2	消防団について	ポンプ車から小型ポンプ車への移行 操法動作の見直し

※令和3年度については、直近の報告書であるため省略した。

② 委員意見交換会での主な意見

平成28年度の「空き家・空き地・空き店舗の対策について」及び令和元年度の「空き家対策等によるまちづくりの推進について」では、現在、大府駅周辺まちづくり検討会議及び共和駅周辺まちづくり検討会議が立ち上がり、方策が議論されている。しかし、地権者と駅前開発を望む市民の考えに温度差があるのではないかと、また、まちづくりにはキーパーソンの存在が必要ではないかといった意見が挙げられた。

平成30年度の「大府市の道路行政について」では、無電柱化、J R 東海道線越え、歩行者や自転車の視点から見た道路整備、通学路・歩道における緑化に関する課題等が挙げられた。

(2) 市内道路の視察

平成30年度の報告書である「大府市の道路行政について」に関して出された意見をもとに、市内道路の現状について現地視察を実施した。道路整備課長から現在の課題や事業の進捗状況等の説明を受けながら、整備中の道路、歩行者や自転車からの視点で見た狭い道路・通学路の危険箇所等、委員が課題であると感じている場所を確認した。

～視察後の意見～

歩道や歩道のない通学路において、電柱や植栽帯により、歩行者の通行が妨げられ、危険な状況になっているのではないかと。

(3) 行政視察

① 広島県福山市「ウォーカブルなまちづくりの取組について」

福山市は、46万人という大都市にもかかわらず、市街地の人口が空洞化した問題を解決するために、福山駅周辺の再生に向けた「ウォーカブルなまちづくり」に取り組んだ。

主な取組として、約90haの地域に、居心地がよく歩きたくなる区域（ウォーカブルエリア）を設定し、官民連携でまちづくりに取り組んでいる。主なものでは、ソフト面での支援として、「リノベーションスクール」を開催し、その結果、20店舗が新規に開業し、地価も9%上昇した「リノベーションまちづくり」がある。

本市や他自治体に取り組んでいるような、空き家や空き店舗を利用する場合に

補助金を交付する制度はなく、行政はあくまでも、ソフト面の支援をしたことで事業者のやる気を起こし、成果をあげている。

～視察後の意見～

本市では現在、まちづくり検討会議において、駅周辺のまちづくり計画の策定や駅周辺の活性化について議論されているが、駅周辺における「滞留することのできる居場所のあるウォークアブルなまちづくり」、「事業者や地権者が自分ごとと認識してもらうための、ソフト面の支援やキーパーソンとなる人づくり」、また、「そもそも本市にとってのにぎわいとは何か」について議論する必要がある。

② 岡山県高梁市「公共交通、乗合タクシー事業の取組について」

高梁市は、平成16年に1市4町が合併して誕生した市のため、面積が広大であり、高齢化対策や人口減少対策が喫緊の課題となっている。

公共交通空白地域を解消するため、民間路線バス、生活福祉バス、スクールバス、乗合タクシーを組み合わせた取組が行われている。

民間路線バス、生活福祉バスは、ともに利用者が減少し、廃止の方向となっている。また、乗合タクシーは、バス路線を補完する形で地域や運行日を決め、「ドアツードア」で運行してきたが、こちらも利用者は減少傾向となっている。

地域によっては乗合タクシーが休止・廃止されたため、その代替による実証事業として「高梁市タクシー利用助成制度」を行っている。

～視察後の意見～

本市でもふれあいバスの充実に取り組んでいるが、更なる高齢化に備え、ふれあいバスの改善を継続しながら、対象を限定したタクシー利用助成や病院・企業との連携等、複合的に考えていく必要があるのではないかと。

高梁市の先行事例を勉強して、コンパクトシティとしての本市ならではの施策の立案に役立ててはどうか。

③ 兵庫県芦屋市「無電柱化推進の取組について」

芦屋市の無電柱化への取組は、都市防災機能の強化、安全で快適な歩行空間の確保、都市景観の向上等の観点から行われてきた。昭和3年の六麓荘地区の取組から始まり、令和4年4月現在、無電柱化率15.4%で、市町村では全国1位となっている。

平成30年11月10日（無電柱化の日）施行で「芦屋市無電柱化推進条例」を制定し、市民や電線管理者と無電柱化推進計画を策定し、無電柱化を推進している。

しかし、1キロ5.3億円のコストが掛かることや事業期間が長いことが問題であり、低コスト手法や民間の力を活用し、積極的な行政の関わりで課題解決に努力している。

～視察後の意見～

無電柱化にはコストと時間が掛かり、容易にできるものではないことを認識できたが、無電柱化は、防災・安全・景観という観点からはメリットでしかなく、本市でも検討していくべき事業である。

いかに電線管理者との合意形成を図っていくのか、また、なぜ無電柱化を進める必要があるのかという市民の理解促進と意識向上に努めることが重要である。

④ 春日井市「先導的モビリティに関する取組について」

春日井市の高蔵寺ニュータウンは、まちづくりから50年が経過し、初期の入居者が高齢になり、区域内の人口も減少している。また、坂道が多く、路線バスの本数も減少しており、外出機会減少等の地域問題解決のため、様々な施策に取り組んでいる。

高蔵寺ニューモビリティタウン構想では、名古屋大学をパートナーとして、新たなモビリティサービスと既存交通とのベストミックス（モビリティ・ブレンド（※））の導入を模索している。

限定区域内ラストマイル自動運転（ゆっくり自動運転）とタクシーの高度利用（AIオンデマンド乗合サービス）の実証実験を行い、高齢者が気軽に外出できるまちづくり、子育て世代が車に頼らず暮らせる持続可能なまちづくりを目指している。

～視察後の意見～

本市は比較的コンパクトな市域のため、市民の移動手段の確保という観点では、基本的にはふれあいバスを主軸に便数、経路、料金体系の見直しを図る必要がある。

市民ニーズや福祉面から見た施策を強化するためには、本市も「モビリティ・ブレンド」の取組を研究していくべきではないか。

※ モビリティ・ブレンドとは、もともとその地域にある交通手段と、新規に導入する手段をその地域にあったかたちでうまく混合して、利便性の向上と選択肢の多様化を図る取組。

3 本市への提案

人の移動及び人の居場所づくりについてテーマ活動を進めた結果、当委員会として、以下3項目についてまとめ、提案することとする。

(1) 安心して歩けるみちづくり

- ・車よりも歩行者の目線を重視したみちづくりを進めること。
- ・植栽は景観を維持しつつ、歩行の妨げにならないように管理し、歩行者の安全を確保すること。

- ・歩行者と自転車が共用している歩道においては、歩行者の安全を十分に確保すること。
- ・狭い歩道、危険な通学路、住宅開発地域等においては、無電柱化や電柱の移設等を検討すること。
- ・協働のまちづくりを進めている本市として、植栽の管理や道路の清掃等に当たっては、地域住民の協力を得ながら行うこと。



危険な通学路（森岡町）

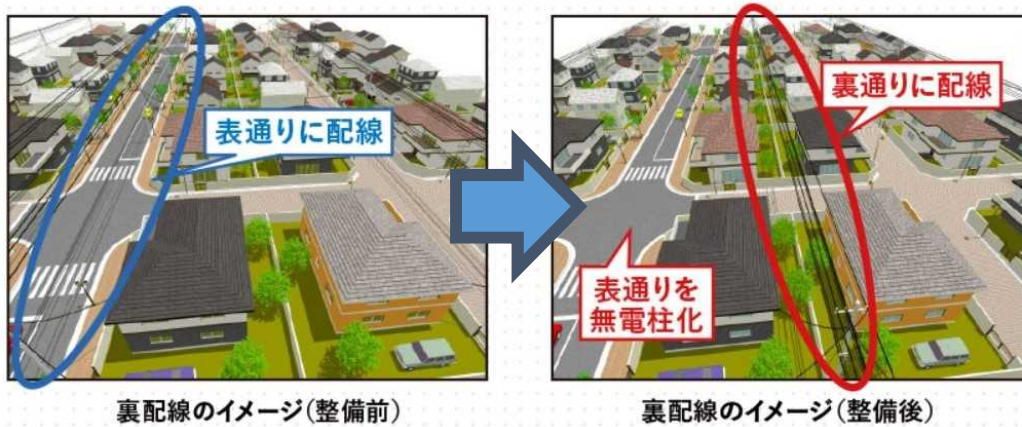


街路樹により根上がりした歩道（大府共和線）



混雑して危険な歩道（柘山上清蔵線）





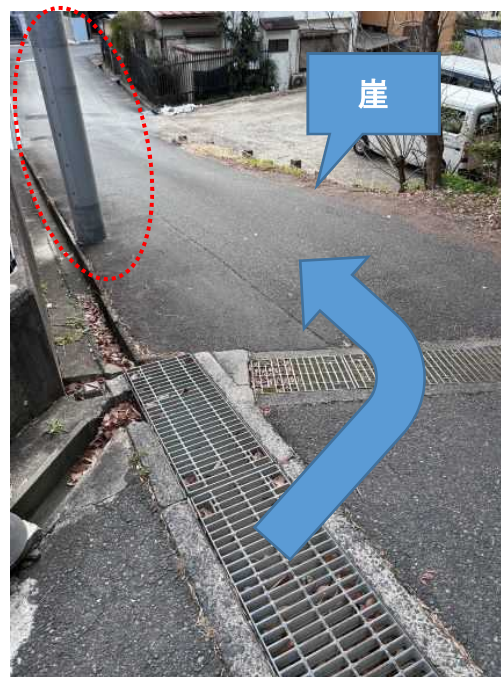
出典：国土交通省ホームページ「無電柱化の手法」から



裏配線により無電柱化された住宅街（一屋町）



グリーンベルト上の電柱（横根町坊主山）



電柱により左折しにくい路地（梶田町）

(2) スムーズな移動手段の充実

① ふれあいバス

- ・ふれあいバスを単なる福祉バスではなく、利便性の高い公共交通バスと位置付け、大胆な増便、経路の拡充を図ること。
- ・そのために受益者負担（応能負担）の考え方に立ち、今後の事業運営を検討すること。

② 民間の力を活用

- ・医療機関、商業施設等、事業者の応益負担も踏まえ、利用者が使いやすい移動手段を確保するよう、民間と連携を図ること。
- ・地域特性、利用者のニーズに応じて、ふれあいバスとタクシー、路線バス等との連携を図り、複合的な利用（モビリティ・ブレンド）を研究していくこと。

(3) 居心地のいい空間づくり

- ・「健康都市おおぶ」として、誰もが利用しやすく滞留することのできる居心地のいい空間をつくること。
- ・ゆとりのある歩道を確保し、ベンチやフリースペースの設置等、歩道の有効活用を進めること。



歩道を活用し、ウッドデッキやベンチを設置した空間づくり（広島県福山市）

4 おわりに

「交通分野からのまちづくりについて」の調査研究を行うに当たり、自動車、歩行者、自転車等、あらゆる移動手段の視点から見た、交通分野の問題と課題について協議を進めた。

道路の問題・課題と言えば、これまで車移動の視点から見たものが多く挙げられてきたが、今回は特に、歩行者等の視点から見たものを挙げることにした。

本市においては、通学する子どもたちやシニアカーを利用する高齢者等、誰もが安心して歩けるみちづくりを進めていくことが最優先である。

いまだ本市では、移動手段が車中心となっているが、今後、超高齢社会が更に進行していくと、自家用車に頼れない市民は確実に増加する。市民の移動手段の一つであるふれあいバスとともに、行政だけでは補完しきれない部分については民間活力による移動手段も充実させ、特に高齢者の外出機会の促進及びスムーズな移動手段の確保を進めていかなければならない。加えて、「健康都市おおぶ」として、市民がまちなかを歩いて楽しむことのできる、居心地のいい空間のあるまちづくりを進めてほしい。

そもそも、市民にとって移動の要である「道路」は、「安全・安心」でなくてはならない。また「公共交通路線」は、誰もが「利用しやすい」ものでなければならない。「安全・安心」という考えを土台として、市民に身近な生活道路や公共交通の問題とその課題を迅速に解決するとともに、「快適・便利で暮らしやすい」という視点でまちづくりに尽力していただきたい。

現在、令和5年度から20年間の計画である「大府市立地適正化計画」が策定中であるが、人の移動、人の居場所の観点から、誰もが住みやすく、持続可能なまちづくりがなされることを期待する。

最後に、当委員会の調査活動に協力いただいた皆様に、この場をお借りしてお礼を申し上げ、本報告書の結びとする。

【調査研究の経過】

(1) 令和4年5月13日（金）建設産業委員意見交換会

- ・1年間の活動の流れについて、委員間で情報を共有した。

(2) 令和4年6月2日（木）建設産業委員意見交換会

- ・年間の調査研究テーマとして、道路行政の視点から見たまちづくりについて、調査研究を行っていくこととした。

(3) 令和4年6月14日（火）建設産業委員意見交換会

- ・所管事務調査として「交通分野からのまちづくりについて」の調査を行うことに決定した。

(4) 令和4年7月4日（月）建設産業委員意見交換会

- ・これまでの委員会のテーマ活動報告について、現状と反映されたこと等を確認し、委員間で共有した。

＜平成25年度＞ 「地域産業の活性化について」

＜平成29年度＞ 「大府市中小企業振興アクションプランの進捗状況について」

＜平成30年度＞ 「大府市の道路行政について」

(5) 令和4年7月19日（火）建設産業委員意見交換会

- ・これまでの委員会のテーマ活動報告について、現状と反映されたこと等を確認し、委員間で共有した。

＜平成26年度＞ 「地域農業の活性化について」

＜平成27年度＞ 「消防団について」

＜平成28年度＞ 「空き地・空き家・空き店舗の対策について」

＜令和元年度＞ 「空き家対策等によるまちづくりの推進について」

＜令和2年度＞ 「消防団について」

(6) 令和4年7月21日（木）建設産業委員市内視察
（委員派遣）

- ・都市整備部道路整備課長と、市内の道路整備の状況を視察した。
- ・視察後の意見交換を行った。



(7) 令和4年10月18日（火）から10月20日（木）まで 県外視察（委員派遣）

- ① 広島県福山市 ウォークアブルなまちづくりの取組について
- ② 岡山県高梁市 公共交通、乗合タクシー事業の取組について
- ③ 兵庫県芦屋市 無電柱化推進の取組について



(8) 令和4年10月24日（月）建設産業委員県内視察（委員派遣）

- ・愛知県春日井市の先導的モビリティに関する取組について視察した。



(9) 令和4年11月7日（月）建設産業委員意見交換会

- ・視察後の意見交換を行い、委員間で先進地での取組について議論を行った。

(10) 令和4年11月15日（火）建設産業委員意見交換会

- ・テーマ活動全体会議について、委員間で事前確認を行った。

(11) 令和4年11月22日（火）テーマ活動全体会議

- ・テーマ活動に関する中間報告を委員長から行い、報告内容に対し、委員外議員から質疑や意見をいただいた。

(12) 令和4年12月9日（金）建設産業委員意見交換会

- ・テーマ活動全体会議において委員外議員よりいただいた質疑や意見について、委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。

(13) 令和5年1月11日（水）建設産業委員意見交換会

- ・委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。

(14) 令和5年1月23日（月）建設産業委員意見交換会

- ・委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。

(15) 令和5年2月6日(月) 建設産業委員意見交換会

- ・委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。

(16) 令和5年2月6日(月) 建設産業委員会

- ・報告書の内容を決定し、本会議で報告することとした。

建設産業委員会委員名簿

(令和4年5月13日～令和5年4月30日)

役職名	氏名	所属会派
委員長	木下 久子	市民クラブ
副委員長	国本 礼子	公明党
委員	大西 勝彦	市民クラブ
委員	久永 和枝	日本共産党
委員	藤本 宗久	自民クラブ
委員	酒井 真二	自民クラブ

(備考)

正副委員長のほかは、議席番号順

